

平成 21年度 兵庫県 鳥獣害アンケート 結果報告



毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただきありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として活用させていただいています。

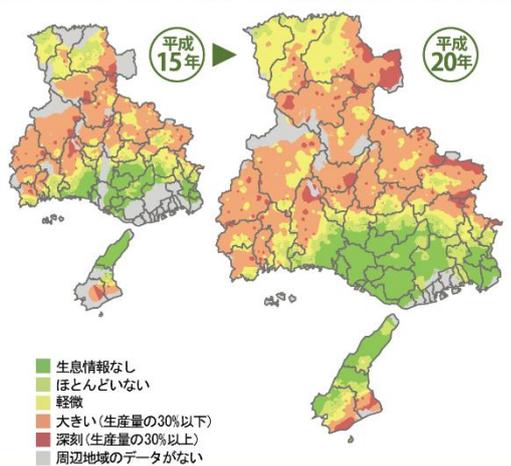
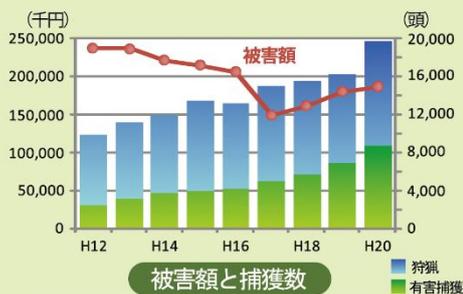
今年度は、シカとアライグマを中心に集計結果の一部をご紹介します。皆様の参考になれば幸いです。

被害の動向

ニホンジカ

シカの被害は、捕獲努力の増強にもかかわらず、ほぼ横ばいです。

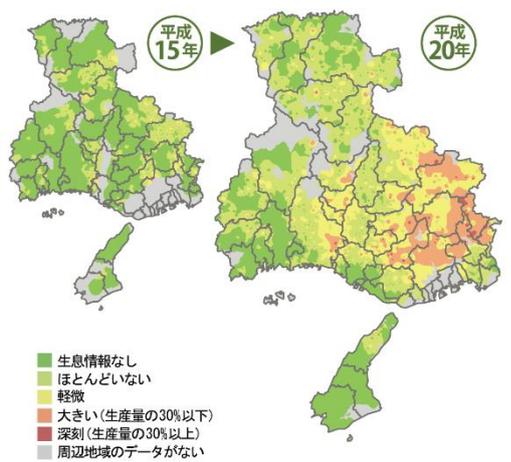
集落へのアンケートでは、被害の拡大や深刻化が見られます。



アライグマ

アライグマの被害も、捕獲努力の増強にもかかわらず、県南東部を中心に急激な増加・拡大が見られます。

まだ、被害が顕在化していない地域でも警戒が必要です。



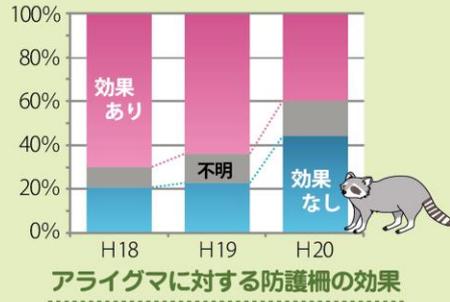
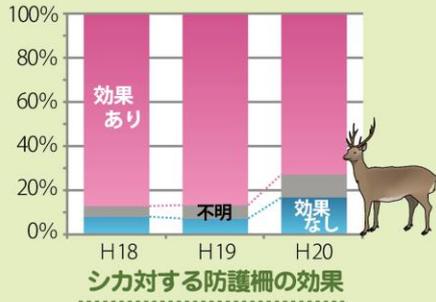


アンケート結果から見る 被害対策の状況

主要な被害対策は、防護柵と捕獲です。防護柵は直接的に被害を防ぎ、捕獲は中長期的な個体数抑制を目指すものです。現在のところ、そのような効果の差が出ているようです。

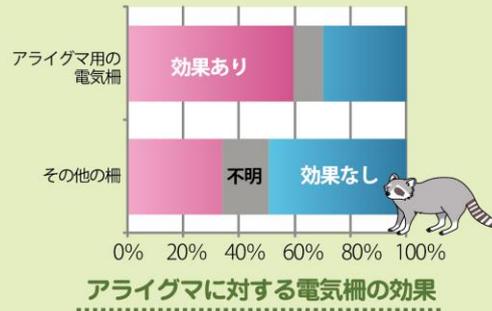
防護柵の効果

多くの集落で、防護柵設置の効果がでています。しかし、年を追うごとに効果が減少しています。柵を点検し、補修や改良、延長などの対応をお願いします。



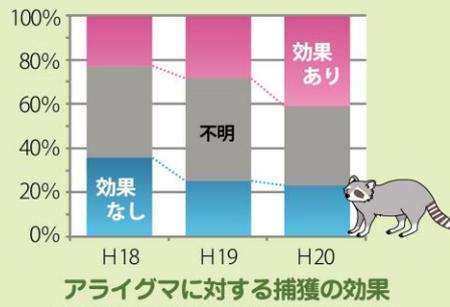
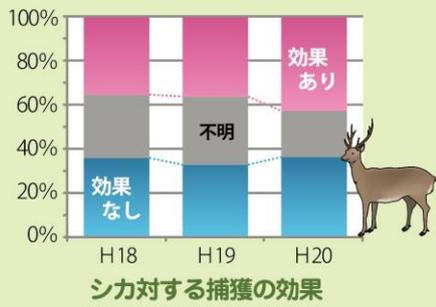
アライグマに対する防護柵

シカやイノシシと比べて、アライグマに対する防護柵の設置は進んでいません。また、効果がでない集落も多いようです。普通の柵は、よじ登ってしまいますが、電気柵をしっかりと張れば効果が上がります。



捕獲の効果

捕獲の効果は、まだ十分に認識されていないようです。今後も捕獲拡大が必要ですが、関係者の努力により、年を追うごとに効果が出てきているようです。





「電気柵」有効に使えていますか？

アライグマ

電気柵 普通の柵ではよじ登ってしまう動物や手や鼻で探りながら行動する動物に効果的です

電源装置
バッテリー
10~15cm 間隔で3本以上
草刈りしないと漏電のもと!
アースの棒は埋設

イノシシ

電源装置
バッテリー
20cm 間隔で3本以上
電線は支柱の外側に張る!

動物の体を通して電気がつながれば効きます

設置やメンテナンスを適切に行えば、効果があがります。

電気柵チェックポイント

- 電圧
電池切れ
配線ミス
漏電防止
- 「碍子」は外向きに

水路や斜面に張るコツ

側溝や水路では？

重り

斜面や窪地では？

追加の電線

電線を垂らして侵入経路をふさぎます。 斜面に沿って電線を追加で張り、潜り込みを防ぎます。

電気をばっちり流すには

○ 通電しやすい
・地面

× 通電しにくい
・コンクリート
・防草シート

サル

登らせて感電させる方法が効果的です

注意 電気柵は適切に設置すれば人には安全ですが、自作の電源装置や交流電源に直結した柵は非常に危険です。電気柵用の電源装置をお使い下さい。

県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
(詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所等)にお問い合わせ下さい。)

防護柵設置事業を継続・適用範囲拡大

- 平成 14 年度から、市町と連携してシカ用防護柵の設置を支援しています。
- 平成 20 年度から既設の防護柵の機能向上を、21 年度からはイノシシ・アライグマ・サル等への対策を、対象に加えています。
 - ▶ 平成 21 年度予算額 5,000 万円(ただし、国の鳥獣被害防止総合対策事業に採択されない事業が対象。)

集落防護柵総点検活動の実施

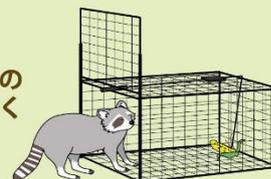
- 県や市町の担当者による支援チームで、集落の被害対策を点検しています。
 - ▶ 平成 21 年度は、105 集落を対象。
- 点検結果から、対策のアドバイスをを行い、今後の県の施策にも活かします。
- 課題を点検し、適切な対策を行えば、多くの被害は軽減できます。



シカ個体群管理事業・外来生物防除事業の拡充

- 平成 21 年度は、シカ 2 万頭、外来生物(アライグマとヌートリア) 4,000 頭を捕獲目標とし、市町と連携して捕獲活動を支援しています。
 - ▶ 平成 21 年度 シカ個体群管理事業予算額 5,207 万円(20 年度 3,272 万円より拡充)
外来生物被害対策事業予算額 1,200 万円(20 年度 720 万円より拡充)
- 対策の推進により、平成 20 年度の捕獲実績は、シカは 19,744 頭、アライグマは 3,133 頭と、いずれも過去最高となりました。

特に、増加中のアライグマの捕獲には、農家の皆様の協力が必要です。捕獲事業への参画や協力をよろしく願います。



野生動物対策に有利な集落環境整備の支援



県民緑税を活用した「野生動物育成林整備(H18~24年)」などを通じて、集落周辺の森林を適切に管理し、野生動物との軋轢の少ない環境整備を支援しています。



平成22年度
兵庫県 鳥獣害アンケート
結果報告

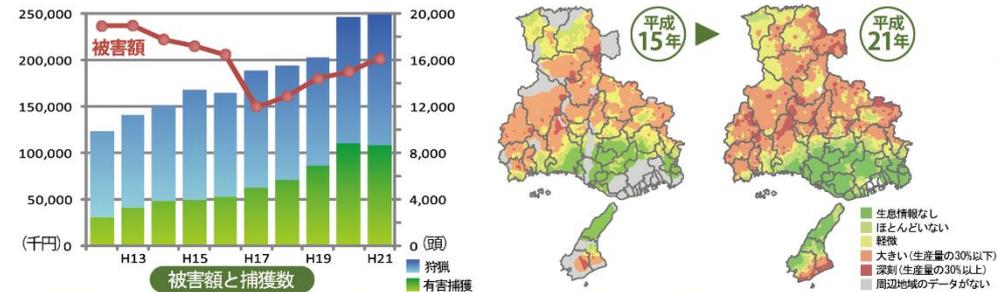


毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただきありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として活用させていただいています。

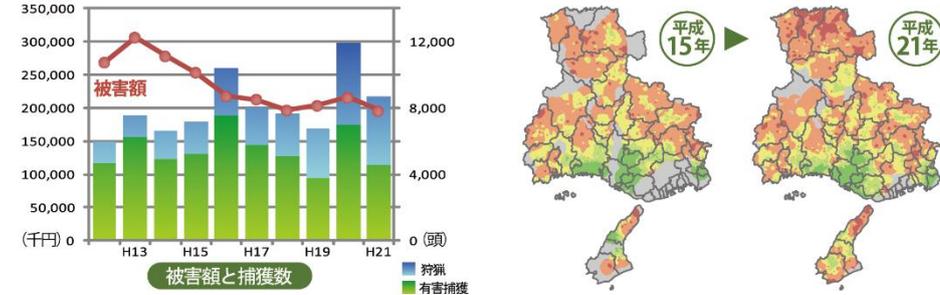
今年度は、昨年度の集計結果と、防護柵の管理や捕獲技術の開発についてご紹介します。皆様の参考になれば幸いです。

被害の動向

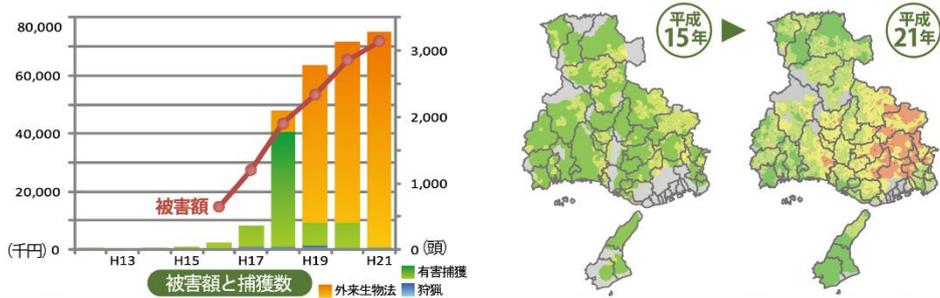
ニホンジカ 捕獲努力の増強にもかかわらず、被害額は増加しています。アンケート結果からも、被害の拡大や深刻化が見られます。



イノシシ 捕獲数は年によってばらつきがあります。近年、被害額は2億円前後と横ばいです。地域的には、但馬北部、淡路北部などで被害が深刻になっています。



アライグマ 捕獲努力の増強にもかかわらず、県南東部を中心に被害の増加・分布の拡大が見られます。まだ被害が顕在化していない地域でも、警戒が必要です。





防護柵の効果的な活用に向けて

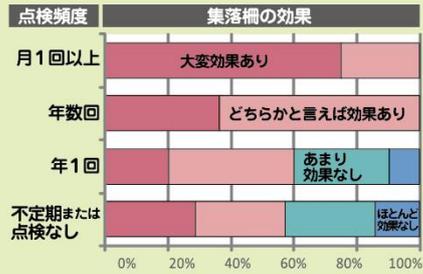
平成 19 年度鳥獣害アンケート調査から「防護柵を設置していても被害が深刻」であった集落を中心に、防護柵の点検を行いました。
その結果から、防護柵の効果をあげるための改善点がみえてきました。

点検・補修を充分行いましょう

柵を設置しても、放置しておけば野生動物が侵入するようになります。



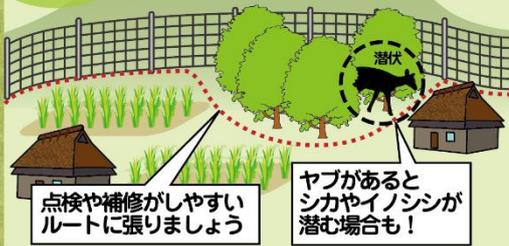
点検・補修をしっかりとっている集落では、柵の効果があらわれています。
被害がでる時期の前には、必ず点検と補修をしましょう。



集落柵の点検頻度と効果の関係

(H21 防護柵総点検結果より)

柵設置の際には 管理しやすさも考えましょう

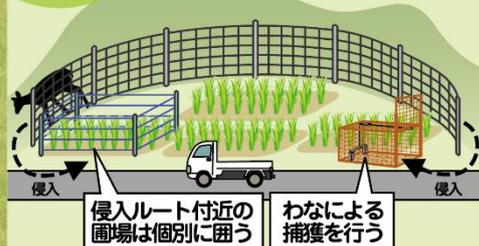


点検や補修がしやすいルートに張りましょう

ヤブがあるとシカやイノシシが潜む場合も!

歩きやすく点検しやすいルートに柵を張ることも重要です。
また、雑草やヤブが茂ると、動物が潜む場所になり、柵の破損も発見しにくくなりますので、注意しましょう。

封鎖できない場所では 個別の柵や捕獲で対策を



侵入ルート付近の圃場は個別に囲う

わなによる捕獲を行う

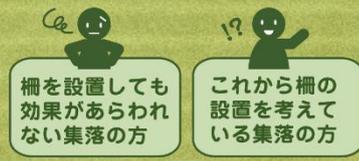
道や川など封鎖できない所からの侵入は大きな課題です。柵によって侵入するルートが絞られるので、個別に田畑を囲ったり、わなで捕獲するなどの対策をしていきましょう。

電気柵は電圧チェックを!

電圧が下がっていると電気柵は効きません。定期的にチェックしましょう。



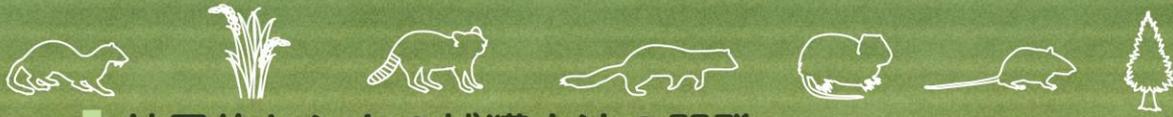
4,000 ~ 5,000 ボルト (V) 以上を保ちましょう。
電圧が数字で分かる「デジタル ボルトテスター」がおすすめです。



柵を設置しても効果があらわれない集落の方

これから柵の設置を考えている集落の方

柵の点検方法や他の集落の優良事例などを紹介します。ご相談ください。



効果的なシカの捕獲方法の開発

群れで出没するシカを一網打尽にする方法を考案し、希望する市町へ必要な資材の貸出を行っています。

機材の設置から餌づけや見回り、捕獲にいたる一連の作業を、地元猟友会のご協力を得て、住民が主体となって運営する方法です。

開発・改良ポイント

従来の囲いわな

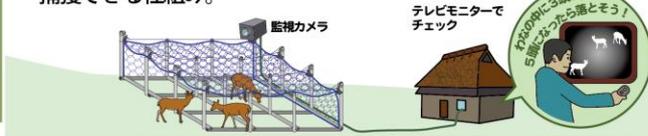
- ・一頭でも扉が開まる
- ・移設が困難
- ・捕獲後の処理が困難

目指したこと

できるだけ簡単に効率よく、なるべく多くのシカを捕獲できる仕組み。

遠隔操作

離れた場所から監視カメラでシカの進入を確認し、たくさん集まったところで、一度に捕獲する方法です。

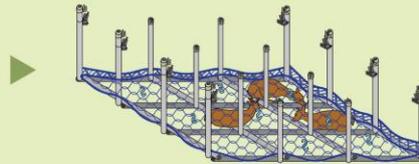


実証中 ドロップネットわな

わなの二つの面が開いているので、シカが入りやすくなっています。



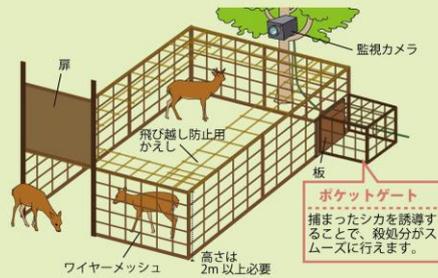
シカが奥へ入ったら、監視カメラで確認し、遠隔操作でネットを落とします。シカはネットにからまるので、捕獲後の処理がスムーズです。



開発中 囲いわな

広く普及している囲いわなも、遠隔操作装置を使うと捕獲効率があがります。また、ポケットゲートで、捕獲後の処理もスムーズになります。

いずれの方法も、餌でシカを寄せることが重要なポイントになります。



実施結果 (一回の作動で捕獲された頭数の多い順)

	頭数	場所	年月日	わなの種類
1	25頭	南あわじ市 阿万上町	H22年 9月 1日	ドロップネット
2	17頭	上郡町 光都	H22年 2月17日	ドロップネット
3	15頭	丹波市 青垣町	H22年 3月16日	大型囲い
4	12頭	上郡町 光都	H21年12月25日	ドロップネット
5	8頭	養父市 大屋町	H21年12月 1日	ドロップネット

わなの開発・設置にご協力いただいた方々に御礼申し上げます。

県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
 (詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所等)にお問い合わせ下さい。)

- 平成 22 年度は、シカの捕獲目標を 30,000 頭とし、捕獲活動を支援しています。

平成 21 年度のシカの捕獲実績は、過去最高の 20,106 頭でした。

シカ個体群管理事業の拡充

- ▶ 平成 22 年度から、捕獲目標を従来より 2,500 頭増やし、8,500 頭とします。

狩猟期間中の捕獲数の拡充

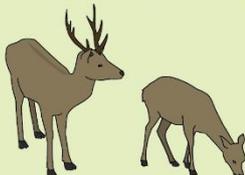
シカ緊急捕獲拡大事業

平成 22 年度から、狩猟期間中の捕獲目標を従来より 4,000 頭増やし、13,300 頭とします。
 また、狩猟者一人当たり 3 頭目から報奨金を支払います。

捕獲体制の整備

「シカ捕獲対策チーム」を設置

シカが多い 6 県民局(北播磨・中播磨・西播磨・但馬・丹波・淡路)に設置し、市町と連携し、被害対策の体制を整備します。



「シカ捕獲専任班」を編成

シカが特に多い 12 市町に、平日でも活動できる狩猟者による「シカ捕獲専任班」を編成して、計画的かつ迅速な捕獲活動を実施します。

外来生物防除事業の拡充

- 平成 22 年度は、外来生物(アライグマとヌートリア)の捕獲目標を 6,000 頭とし、捕獲活動を支援しています。

- ▶ 平成 22 年度 外来生物被害対策事業予算額 1,800 万円(平成 21 年度 1,200 万円より拡充)

- 平成 21 年度の捕獲実績は、アライグマは 3,281 頭、ヌートリアは 1,201 頭と、いずれも過去最高となりました。

増加中の外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。
 捕獲事業への参画や協力をよろしくお願いします。



野生動物対策に有利な集落環境整備の支援



県民緑税を活用した「野生動物育成林整備(H18~24年)」などを通じて、集落周辺の森林を適切に管理し、人と野生動物の軋轢の少ない環境整備を支援しています。



平成 23 年度

兵庫県

鳥獣害アンケート結果報告

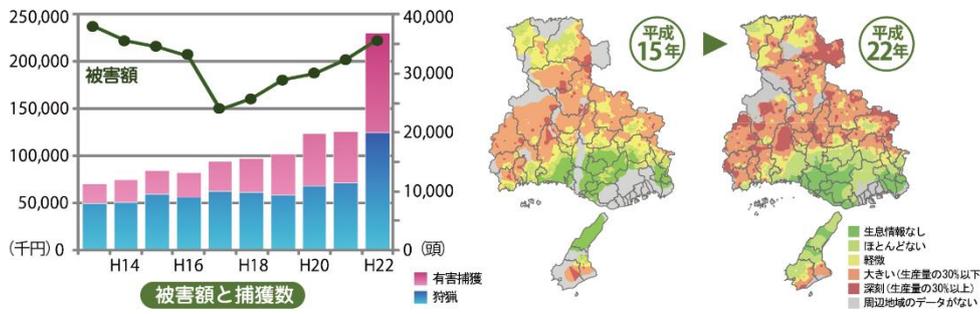


毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

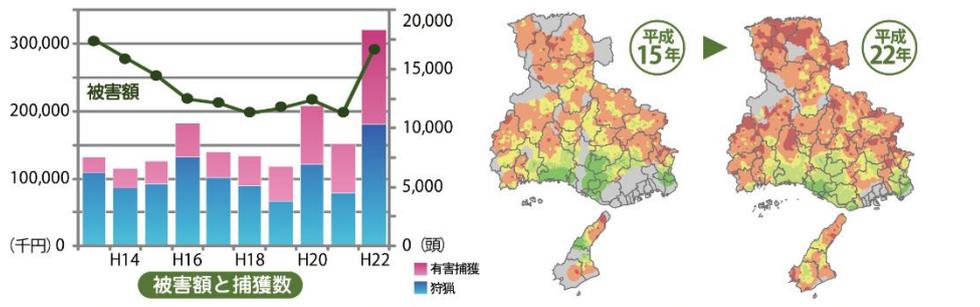
ニホンジカ

昨年の捕獲数は過去最高となりましたが、被害額は増加しています。アンケート結果からも、被害の拡大や深刻化が見られます。



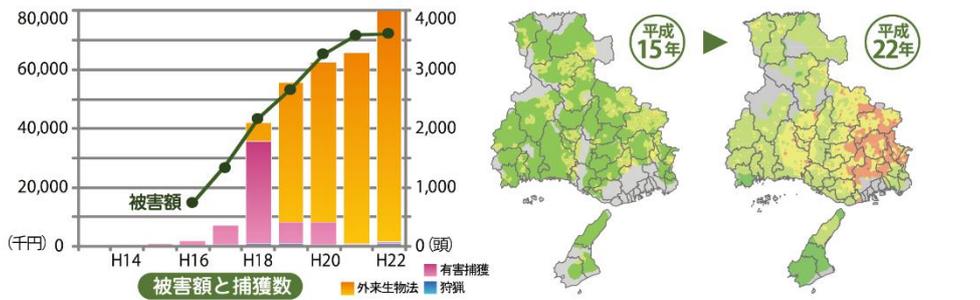
イノシシ

昨年の捕獲数は過去最高となりましたが、被害額は3億円近くにのぼりました。



アライグマ

捕獲努力の増強にもかかわらず、県南東部を中心に被害の増加・分布の拡大が見られます。まだ被害が顕在化していない地域でも、警戒が必要です。



県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
(詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所等)にお問い合わせ下さい。)

平成 22 年度からは、シカの年間捕獲目標を 30,000 頭とし、捕獲活動の支援を行ったところ、昨年の捕獲数は過去最高の 36,774 頭となりました。平成 23 年度も目標達成にむけ、各種対策を実施しています。

シカ個体群管理事業の実施

広域的なシカの一斉捕獲を実施しています。



シカ捕獲実施隊編制への支援

計画的かつ迅速な捕獲活動を実施するため、市町が設置する「シカ捕獲実施隊」の活動を支援しています。

狩猟期間中のシカ緊急捕獲拡大事業の実施

狩猟期間中のシカの捕獲について、狩猟者で構成するチームに対し、3 頭目から「捕獲報償費」を交付します。



機能強化シカ囲いわなの普及

森林動物研究センター等が共同開発した、無線遠隔操作による囲いわなや自動的に監視・捕獲する囲いわなを普及しています。

外来生物防除事業の拡充

平成 23 年度は、外来生物(アライグマとヌートリア)の捕獲目標を 6,000 頭とし、捕獲活動を支援しています。

平成 22 年度の捕獲実績は、アライグマは 3,999 頭、ヌートリアは 1,317 頭と、いずれも過去最高でした。



増加中の外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。
捕獲事業への参画や協力をよろしくお願いします。

野生動物対策に有利な集落環境整備の支援



県民緑税を活用した「野生動物育成林整備(第 2 期 H23 ~ 27 年)」などを通じて、集落周辺の森林を適切に管理し、人と野生動物の軋轢の少ない環境整備を支援しています。

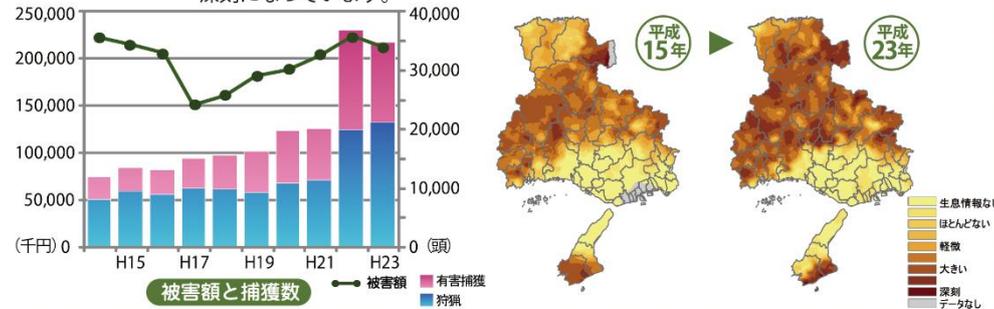


平成24年度 兵庫県 鳥獣害アンケート 結果報告

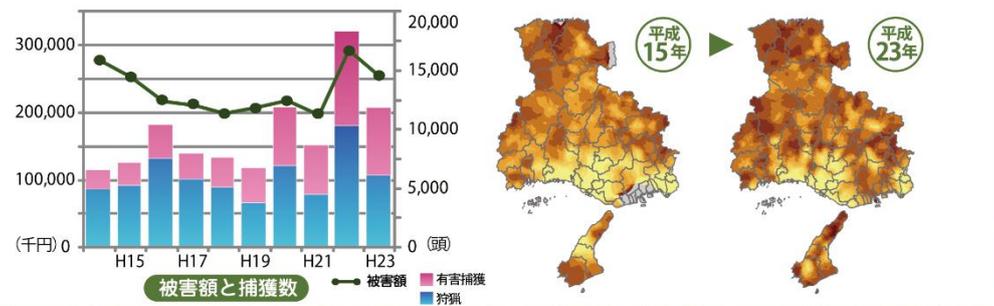
毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

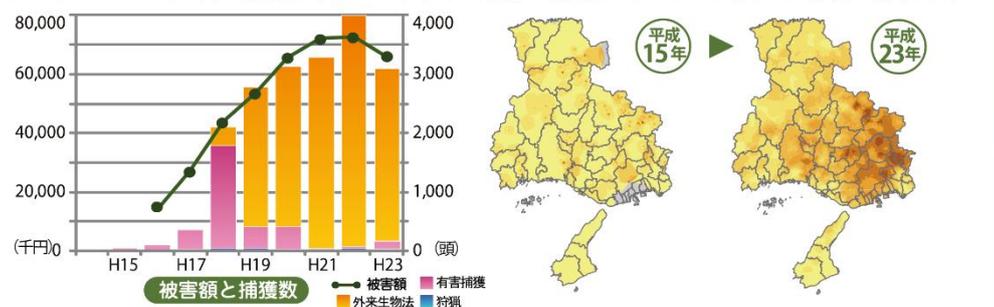
ニホンジカ 捕獲数は、昨年に引き続き3万頭を超え、被害額の増加傾向は、頭打ちとなりました。しかし、被害は、西播磨から但馬北西部と阪神北東部にかけての地域や淡路西部などで深刻になっています。



イノシシ 捕獲数は、例年並みとなりました。被害額は、減少しましたが、2億5千万円を超えています。被害程度は、但馬北部と淡路北部を中心に、県の広域で深刻になっています。



アライグマ 捕獲数と被害額は、やや減少傾向になりました。しかし、県南東部を中心に被害の拡大と深刻化が見られます。まだ被害が顕在化していない地域でも、警戒が必要です。



県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
(詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所等)にお問い合わせ下さい。)

平成 22 年度から、シカの年間捕獲目標を 30,000 頭とし、捕獲活動の支援を行ったところ、捕獲数は平成 22 年度は 36,774 頭、平成 23 年度は 34,884 頭となりました。平成 24 年度も目標達成にむけ、各種対策を実施しています。

シカ個体群管理事業の実施

広域的なシカの一斉捕獲を実施しています。



シカ捕獲実施隊編制への支援

計画的かつ迅速な捕獲活動を実施するため、市町が設置する「シカ捕獲実施隊」の活動を支援しています。

狩猟期間中のシカ緊急捕獲拡大事業の実施

狩猟期間中のシカの捕獲について、狩猟者で構成するチームに対し、3 頭目から「捕獲報償費」を交付します。



機能強化シカ囲いわなの普及

森林動物研究センター等が共同開発した、無線遠隔操作による囲いわなや自動的に監視・捕獲する囲いわなを普及しています。

特定外来生物被害対策事業の実施

平成 24 年度は、外来生物(アライグマとヌートリア)の捕獲目標を 7,000 頭とし、捕獲活動を支援しています。

平成 23 年度の捕獲実績は、アライグマは 3,145 頭、ヌートリアは 1,147 頭でした。



増加中の特定外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。捕獲事業への参画や協力をよろしくお願いします。

野生動物対策に有利な集落環境整備の支援



県民緑税を活用した「野生動物育成林整備(第 2 期 H23 ~ 27 年)」などを通じて、集落周辺の森林を適切に管理し、人と野生動物の軋轢の少ない環境整備を支援しています。



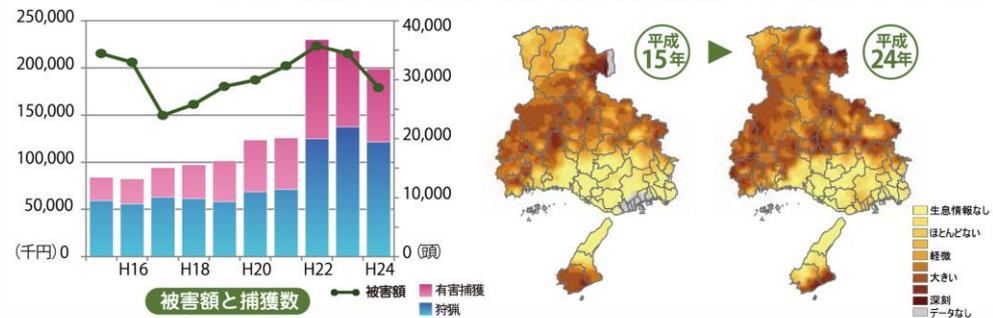
平成25年度 兵庫県 鳥獣害アンケート 結果報告



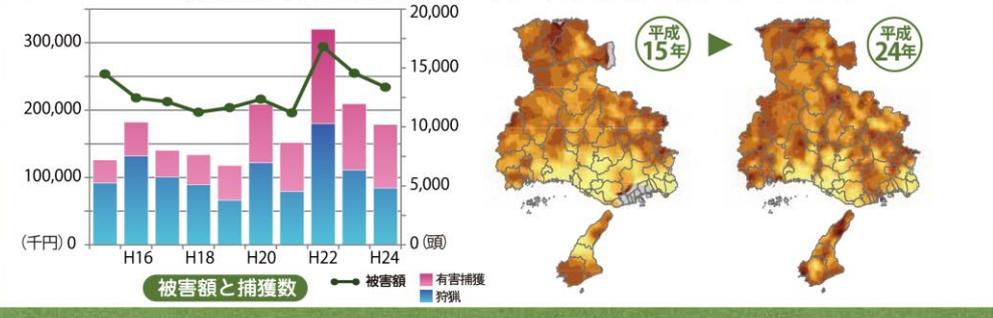
毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

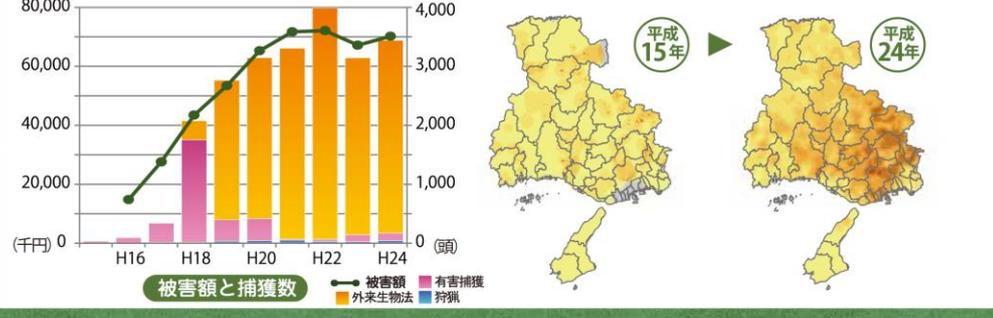
ニホンジカ 捕獲数は3年連続で3万頭を超え、全体的に被害は減少傾向になりました。しかし、西播磨から但馬北西部と阪神北東部や淡路南東部などでは深刻になっています。



イノシシ 捕獲数は例年並みとなりました。被害額は減少しましたが、2億3千万円を超えています。被害程度は但馬北部と淡路北部を中心に、県の広域で深刻になっています。



アライグマ 捕獲数と被害額の増加傾向は、頭打ちとなりました。しかし、県南東部を中心に被害の拡大と深刻化が見られます。まだ被害が顕在化していない地域でも、警戒が必要です。



県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
 (詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所等)にお問い合わせ下さい。)

平成 22 年度から、シカの年間捕獲目標を 30,000 頭とし、捕獲活動の支援を行ったところ、捕獲数は平成 22 年度は 36,774 頭、平成 23 年度は 34,884 頭、平成 24 年度は 31,815 頭となりました。平成 25 年度も目標達成にむけ、各種対策を実施しています。

シカ个体群管理事業の実施

広域的なシカの一斉捕獲を実施しています。



シカ捕獲実施隊編制への支援

計画的かつ迅速な捕獲活動を実施するため、市町が設置する「シカ捕獲実施隊」の活動を支援しています。

狩猟期間中のシカ緊急捕獲拡大事業の実施

狩猟期間中のシカの捕獲について、狩猟者で構成するチームに対し、3 頭目から「捕獲報償費」を交付します。



機能強化シカ囲いわなの普及

森林動物研究センター等が共同開発した、無線遠隔操作による囲いわなや自動的に監視・捕獲する囲いわなを普及しています。

特定外来生物被害対策事業の実施

平成 24 年度は、外来生物(アライグマとヌートリア)の捕獲目標を 7,000 頭とし、捕獲活動を支援しました。

平成 24 年度の捕獲実績は、アライグマは 3,407 頭、ヌートリアは 927 頭でした。



増加中の特定外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。捕獲事業への参画や協力をよろしくお願いします。

野生動物対策に有利な集落環境整備の支援



県民緑税を活用した「野生動物育成林整備(第 2 期 H23 ~ 27 年)」などを通じて、集落周辺の森林を適切に管理し、人と野生動物の軋轢の少ない環境整備を支援しています。



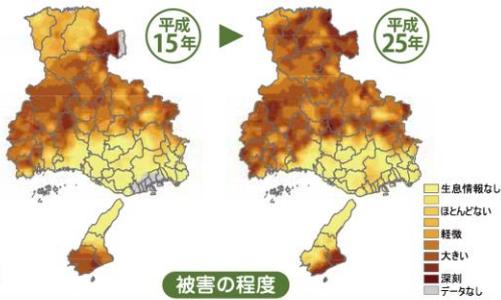
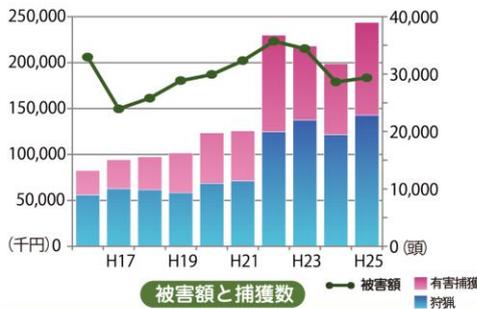
平成26年度 兵庫県 鳥獣害アンケート 結果報告

毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

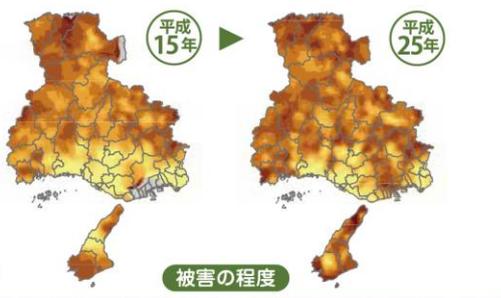
ニホンジカ

捕獲数は4年連続で3万頭を超え、平成25年度は過去最高の38,992頭となりました。しかし西播磨から但馬北西部と阪神北東部や淡路南東部などでは被害が深刻です。



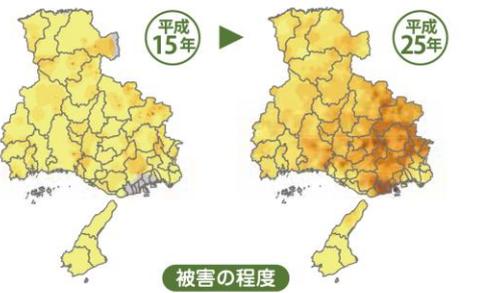
イノシシ

捕獲数は1万5千頭程度でしたが、被害額は2億7千万円近くにのぼります。被害程度は但馬北部と淡路北部を中心に、県の広域で深刻になっています。



アライグマ

捕獲数、被害額ともに過去最高となりました。県南東部を中心に被害の拡大と深刻化が見られます。まだ被害が顕在化していない地域でも、警戒が必要です。



県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
(詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所等)にお問い合わせ下さい。)

平成 22 年度から、シカの捕獲拡大対策として、年間捕獲目標を 30,000 頭とし、22 年度 36,774 頭、23 年度 34,884 頭、24 年度 31,835 頭の捕獲実績となりました。平成 25 年度からは、捕獲目標を 35,000 頭に引き上げ、25 年度の捕獲実績は、38,992 頭となりました。平成 26 年度も引き続き 35,000 頭の捕獲目標に向け、各種対策を実施しています。

シカ個体群管理事業の実施

広域的なシカの一斉捕獲を実施しています。

シカ有害捕獲専任班への支援

計画的かつ迅速な捕獲活動を実施するため、市町が設置する「シカ有害捕獲専任班」の活動を支援しています。



狩猟期間中のシカ捕獲拡大事業の実施

狩猟期間中のシカの捕獲について、狩猟者で構成するチームに対し、「捕獲報償費」を交付します。



機能強化シカ囲いわなの普及

森林動物研究センター等が共同開発した、無線遠隔操作による囲いわなや自動的に監視・捕獲する囲いわなを普及しています。

特定外来生物被害対策事業の実施

平成 25 年度は、外来生物(アライグマとヌートリア)の捕獲目標を 7,000 頭とし、捕獲活動を支援しました。

平成 25 年度の捕獲実績は、アライグマは 4,136 頭、ヌートリアは 984 頭でした。



増加中の特定外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。捕獲事業への参画や協力をよろしくお願いします。

野生動物対策に有利な集落環境整備の支援



県民緑税を活用した「野生動物育成林整備(第 2 期 H23 ~ 27 年)」などを通じて、集落周辺の森林を適切に管理し、人と野生動物の軋轢の少ない環境整備を支援しています。



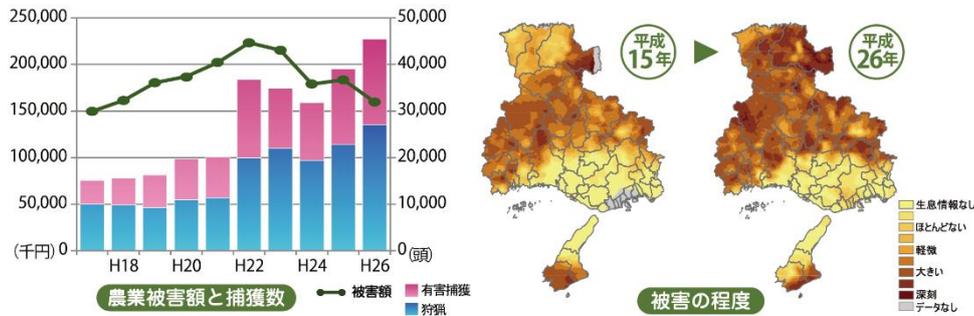
平成27年度 兵庫県 鳥獣害アンケート 結果報告



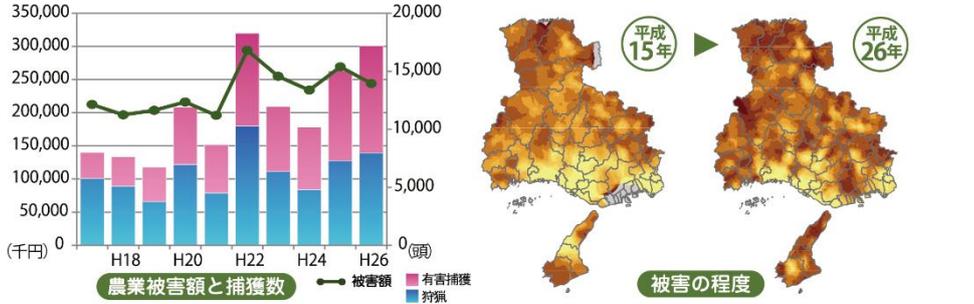
毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

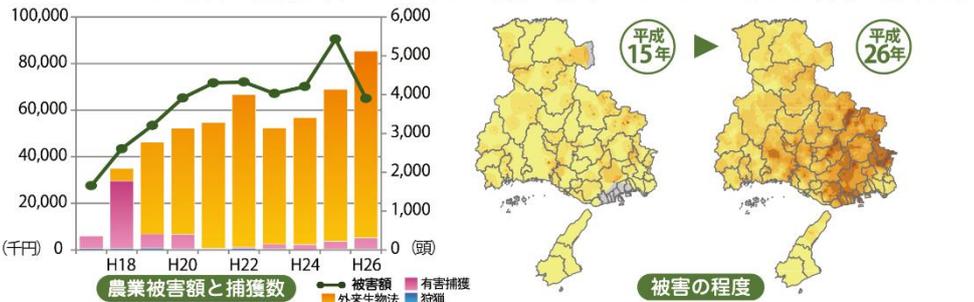
ニホンジカ 平成26年度の捕獲数は4万5千頭を超え、過去最高となりました。しかし西播磨から但馬北東部と阪神北東部や淡路南東部などでは被害が深刻です。



イノシシ 平成26年度の捕獲数は1万7千頭を超え、平成22年度に次いで二番目に多い捕獲数となりました。被害程度は但馬北部と淡路北部を中心に、県の広域で深刻になっています。



アライグマ 平成26年度の捕獲数は5千頭を超え、過去最高となりました。県南東部を中心に被害の拡大と深刻化が見られます。まだ被害が顕在化していない地域でも、警戒が必要です。



県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力いただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
(詳細は、最寄りの市町または県民局(農林(水産)振興事務所)にお問い合わせ下さい。)

平成 22 年度から、シカの捕獲拡大対策として、年間捕獲目標を 30,000 頭に、平成 25 年度からは 35,000 頭に設定し、毎年、目標を上回る実績を上げています。平成 26 年度には過去最高の 45,461 頭を捕獲しました。今年度も引き続き 35,000 頭の捕獲目標に向け、各種の対策を実施しています。

シカ有害捕獲促進支援事業の実施

広域的なシカの一斉捕獲活動を支援しています。



シカ有害捕獲専任班支援事業の実施

計画的かつ迅速な捕獲活動を促進するため、市町が設置する「シカ有害捕獲専任班」の活動を支援しています。

狩猟期シカ捕獲拡大事業の実施

狩猟期間中のシカ捕獲について、狩猟者で構成するチームに対し、「捕獲報償費」を交付します。



機能強化捕獲わなの普及

森林動物研究センター等が開発した、無線遠隔操作による囲いわなや、自動的に監視・捕獲する囲いわなを普及しています。



ストップ・ザ・獣害事業の実施

被害地域の皆様が狩猟者と協力してシカ、イノシシ等を捕獲する活動を現地指導員が支援する、「ストップ・ザ・獣害事業」を推進しています。

特定外来生物被害対策事業の実施

特定外来生物に指定されているアライグマ、およびヌートリアの捕獲活動を支援し、平成 26 年度の捕獲実績は、アライグマ 5,121 頭、ヌートリア 931 頭でした。



増加中の特定外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。捕獲事業への参画や協力をよろしくお願ひします。



平成28年度
兵庫県 鳥獣害アンケート
 結果報告

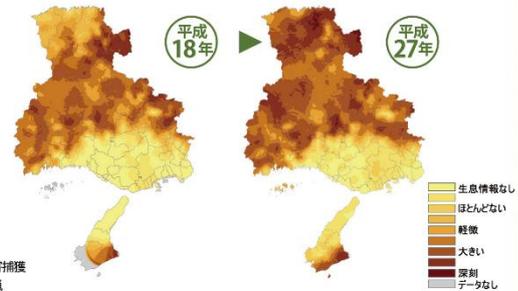
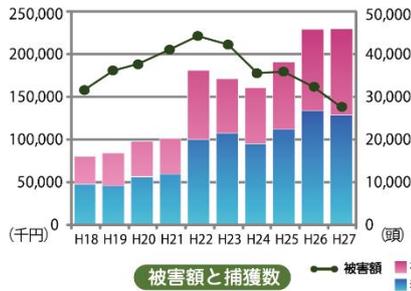


毎年「鳥獣害アンケート」にご協力いただき、ありがとうございます。調査結果は、県の被害対策を検討するための基礎資料として、活用させていただいています。

被害の動向

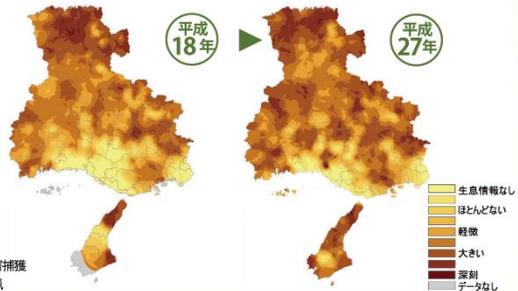
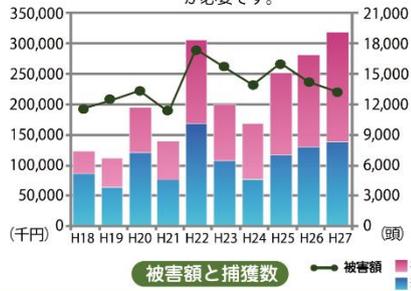
ニホンジカ

平成22年度から年間3万頭を超える捕獲を達成しており、被害額も平成22年度をピークに減少傾向が見られます。しかし西播磨から丹波、但馬、淡路南東部など被害の深刻な地域が見られます。



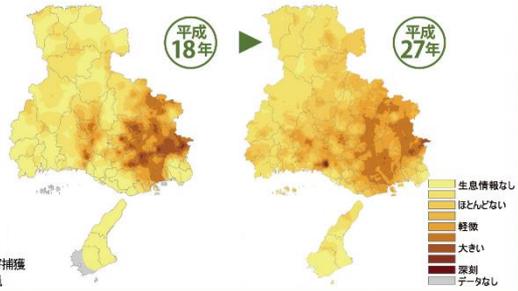
イノシシ

平成27年度の捕獲数は1万9千頭を超え、過去最高となりました。被害のピークであった平成22年度以降は、明らかな被害の増加は見られないものの、県の広域で深刻な被害が続いており対策の継続が必要です。



アライグマ

平成27年度の捕獲数は4千5百頭を超え、平成26年度に次いで二番目に多い捕獲数となりました。昨年度からの被害の増加は見られないものの、県南東部から東播磨を中心に被害が続いており警戒が必要です。



県の被害対策支援事業

兵庫県では、ご協力をいただいた調査結果をもとに、次のような事業に取り組んでいます。
(詳細は、最寄りの市町または県民局・県民センター（農林（水産）振興事務所等）にお問い合わせください。)

シカの捕獲事業として、平成 22 年度から、年間捕獲目標を 30,000 頭に、平成 25 年度からは、35,000 頭に設定し、捕獲を進めています。
平成 27 年度には、過去最高となる 45,569 頭を捕獲しました。
平成 28 年度は、捕獲目標を 45,000 頭とし、目標の達成に向け、各種の対策を実施しています。

シカ有害捕獲促進支援事業の実施

広域的なシカの一斉捕獲活動を支援しています。



シカ有害捕獲専任班支援事業の実施

計画的かつ迅速な捕獲活動を促進するため、市町が設置する「シカ有害捕獲専任班」の活動を支援しています。



狩猟期のシカ捕獲拡大事業の実施

狩猟期間中のシカ捕獲について、狩猟者で構成するチームに対し、「捕獲報償費」を交付します。

機能強化捕獲わなの普及

森林動物研究センター等が開発した、無線遠隔操作による囲いわなや、自動的に監視・捕獲する囲いわなを普及しています。



ストップ・ザ・獣害事業の実施

被害地域の皆様が狩猟者と協力してシカ、イノシシ等を捕獲する活動を現地指導員が支援する、「ストップ・ザ・獣害事業」を推進しています。

特定外来生物被害対策事業の実施

特定外来生物に指定されているアライグマ、およびヌートリアの捕獲活動を支援し、平成 27 年度の捕獲実績は、アライグマ 4,795 頭、ヌートリア 1,014 頭でした。



増加中の特定外来生物の捕獲には、農家の皆様のご協力が必要です。捕獲事業への参画や協力をよろしくお願いいたします。

